

常新新聞

定部金貳圓 一週五圓 一月十二圓 三月三十五圓 半年六十五圓 一年一百一十圓

電話六三〇番

本社 平陽町 電話六三〇番

刊夕日六十月三

名産 水節に多量の藥用 生葡萄酒を混合して 製造したる滋養品に して發賣することなく 贈答品に適す

發賣元 佐藤ブドー 酒店

久保田バンヤ 電話八〇四番

山野邊藥局

痔疾最新内服藥

ダイサン錠

是非御試下さい

十六日より特別上映

美人はこわいぞ

帝キネ特作品 市川百々之助主演

時戀のかんざし

廣山昇共演

喜劇 八笑人

マキノ超々特別マキノ智子主演

嵐三郎 山本禮三郎 市川小文治 鈴木澄子 助演

特別興行につき特等六十錢 一等五十錢 二等四十錢

看護婦派遣

の求めに應ず

平陽町 看護婦會

電話三〇七番

十字屋洋服店

平陽町 停車場前通り

合着もの

種々取揃へました

大勉強いたします

小供洋服 壹圓五十錢より

其他特別格安もの多数是非御出下さい

能率増進現代的日用品

ワシ印ハラゴム印肉バット (金拾五錢)

コレハ小サキ判或ハミトメ印用ニ携帶便利

ライオン印萬年バット (金壹圓也)

コレハ店判仕切判、官廳、會社、銀行用 (インキ) を塗らずに永久に使へるゴム印肉

僅か拾五錢で

拾萬個印が押せます

コノハラ萬年バットは一個が五年間以上使用出来る事は 遞信省經理局の認定書に於り明かす

平陽町古鍛冶町十番地 (電話四四四番)

萬年バット 阿康藥店

東北代理店

生徒募集

本科第一部 (從來ノ高等女學校ト略同シ) 卒業 二十名

本科第二部 (從來ノ師範部ト略同シ) 卒業 五十名

技藝高等科 (從來ノ技藝高等科ト略同シ) 卒業 五十名

技藝速成科 (從來ノ技藝速成科ト略同シ) 卒業 五十名

出願期日 三月三十一日

學則並入學願書履歷書用紙ハ郵券二錢ヲ添へ本校ニ 請求セラレタシ

平陽町 搔搔小路 (電話四四五番)

文部大臣認可申請中 平陽女學校

磐城共濟病院

平陽町 (電話六四一番)

内科 小兒科 難波 陸

院長 醫學博士 粟野 省三

外科 皮膚泌尿科 木村 淳

外科 婦人科 五十嵐 雄二

産科 婦人科部長 吉本 孝平

藥劑士 賀澤 忠治

病院主事

食用鳩新入荷

優良食用鳩として定評ある

北米 カルノー種

シルバーキング種

ホワイト、キング種

北米テキサス州から直輸入本日入荷致しました愛好者各位に御飼禽を推薦致します其の他内外の珍鳥名鳥が取揃えてあります

平陽町本通り

ベニヤ小鳥店

藤沼醫院

電話五〇七番

赤心堂病院

平陽町字田町 (電話四七五番)

院長 新妻由五郎

主任 野秋善直

主任 小林四郎

主任 木下寅市

外科、耳鼻科、泌尿科

産婦人科

内科

×光線科 藥局

新菓「時雨の松」發賣

今回大方諸彦のむす、めに依り風味体載等を吟味して新菓子「時雨の松」を製造しました御進物や御土産には好適品と存じます左記各店にて販賣中ですから一度お試し願ひます

平陽町小太郎町 (電話三六〇番)

榮屋製菓所

一丁目 金澤菓子店

二丁目 吉野菓子店

三丁目 立花菓子店

四丁目 永野キヤン

同 柳屋商店

同 マツモトヤ

同 日進堂支店

同 伊東土産店

同 好川菓子店

同 柴田菓子店

同 水野菓子店

同 福田菓子店

生徒募集摘要

一、募集人員 入學手續

1 高等女學部第一學年 五十名 △志願者ハ本校規定在學證書ニ適當記入捺印シ

2 全 第二學年 補欠 若干名 上三月三十一日マデニ

3 裁縫女學部普通科 百五十名 平陽町女學校ニ提出ス

4 全 高等科 若干名 △定員超過ノ際ハ在學證書提出ノ順ニ採用ス

5 専 修 科 三十名 △詳細ハ本校宛學則請求書ニ

6 洋服裁縫科 高等科 二十名

7 研究 科 二十名 昭和三年三月

福島縣平陽町 私立藤田女學校

全 湯本町 私立藤田女學校 湯本分校ニ提出

全 江名町 私立藤田女學校 江名分校ニ提出

手續中江名町役場ニ提出

平窪村の隔離病舎が不備で大狼狽を來す

大正十二年度の場合より頗る悪性で面倒か

石城郡に於ける天然痘の初發者を出した平窪村が近年傳染病のなかつた事が幸か不幸か隔離舎の不備で大狼狽をなす居るは既報したが、急施村會を聞き如何に泥棒を捕へて繩をなす様に周章しても到底現下の應急に間に合ふ見込なく最初の發生農家太田徳男方

傳染經路がアイ味

古峰詣りは單なる風評

平窪村太田丑藏の死因が天然痘であつた事は殆ど確定的と推斷されたが同人の傳染經路については最初死亡數日前の栃木縣の古峰詣りならんと推定したが其の後此の説は單なる風評に過ぎなかつた事がわかり丑藏は二月以降の總選舉の際出平した以外他出なかつた事も明瞭となり先づ第一説は完全に覆へされるに致つた、而して縣衛生課に依つて鋭意探究の結果、丑藏の二男太田勝示(三)が客月中旬醫療器械販賣のため長岡、新潟地方

平局員警戒

時々消毒し

郵便物發受に 患家には直接渡さず 縣下各地で平郵便局を經由した郵便物に對し極度に恐怖を感じてゐるが本家本元の平局員は更に大恐慌で郵便物の發受に大警戒を加へ局員一同はマスクをかけ時々身體を消毒し又患者あての郵便物は平町平窪村の各町村役場に交附し衛生課から直接に患家に手渡す方法を取つて居るが更に蔓延するやうな郵便物全部を同局で消毒する方針である

種痘後その日の内に痒くなるのは不善感

其際は何べんもやれど

市原院長語る

天然痘唯一の豫防法である種痘について縣病院院長市原卯太郎氏は語る一種痘の善感ならよいが不善感の際はいつ免疫性が失ふかも分らないからその際は

萬全の策として何

べんもやつた方がよい種痘もその日の内にかゆくならやうだつたら不善感で善感の際には二日から卅八度位の熱が出て小さいおでこが出來それが堅くなり自然に

飛ぶ様に

マスク其他

消毒器が賣れる

平町では今回の天然痘發生が隣村平窪村に聞いて極度におびえ上がり空氣傳染の恐ろしさに俄にマスクをか

石城郡と東洋の各地がくされ縁

天然痘を仲立にして

石城郡に天然痘發生してから僅三日間の内に十餘名の患者をだしたことは全國民を恐怖せしめて居るその傳染系統はまだ明白に判明しな

病氣は

主として外國に發生しそれが下關神戸

東京といふ經路で内地一般に侵入するので内務省でもシンガポール國際聯盟保健

關係を

持つこれ等の東洋諸國から移入されて

來たもので見様によつては天然痘を仲立して石城郡と

東洋諸國と腐れ縁がつながつてゐるともいふ東洋の天

然痘は左の通りである



美容 髪 髻

昆布巻の作り方 昆布は青板昆布がよろしくワラ

で砂をよく落とし、濡布巾で拭いて用ひます。鮎かハゼの小便を巻き入れる場合は

生のまゝより一口位干すか焼くかして用ひた方が美味しく出來ます。昆布を適宜の大きさに切り魚を芯に入れて洗つた乾瓢で結んで鍋に入れて水のかぶる位の煮出し汁の水を加へ、なほ水量の割の酒を入れて火にかけて一煮立ちしたら文火にして

汁の三分の一位になるまで煮込み、砂糖醬油を少しく薄味加減に味して汁のつまる迄煮ます、乾ニシンを芯に用ゐる時はニシンを一晚灰水に浸してよく洗ひ適宜の大きさにさいて用ひ、鹽タラは水につけ鹽出し、て細長く切り小魚の時と同じに作りませう。

青年雄辯

日勞黨主催で

日勞黨磐城地方青年前衛隊

旺盛な就職熱

殊に少女達に

各方面に乗り出す

各學校の卒業期を控て其學舎から社會の荒波に吐き出される各學生生徒の内わけ

可憐なのは小學校

を終へて出やうとする少年少女達である、其少年少女達で上級校に進學しやうと

漁民は魚が賣れず

魚が賣れず

石城郡平窪村に天然痘發生すると聞くと聞くと平町にも二名の患者を出した、平町を經由する荷物は病菌輸送の疑ひなきにあらざる状態になつて來たが傳染病流行期には其の都度傳播紹介の役をつとめ、鮮魚が殊に此地を經由するものは需要減び大にこぼしてゐる

| 患者 | 死亡 |
|-------|----|
| ヘリム島 | 四 |
| バスラム | 四 |
| ボンベイ | 四 |
| カルカタ | 四 |
| マドラス | 二 |
| ネガバサム | 一 |
| ラングリン | 一 |
| ボンヂセリ | 六 |
| コロソボ | 二 |
| スラバヤ | 一 |
| メダン | 一 |
| ランヂン | 一 |
| 香港 | 一 |
| 上海 | 一 |
| 奉天 | 三 |
| 大連 | 三 |